

千畑小学校 PTA 交流部だより

# 絆 次世代につなぐ

発行：令和2年12月24日  
編集：PTA 交流部  
印刷：(有)グラフィックコミュニケーション



## 交流のチカラ

PTA 会長

御田小交流は昭和五十二年、私自身が千屋小学校在学当時に始まりました。

我が家での受け入れではありませんでした。が、近所の受け入れの際には地域の子供を巻き込み一緒に遊んだ記憶が今でも残っています。

時を経て、我が娘が二年生の時に初めてホームステイの受け入れをしました。

一人っ子の娘にして、五年生のお姉さん二人と過ごした三日間は、最高の笑顔あふれ、楽しい記憶として残り、以後毎年の受け入れを楽しみにしてきました。

また、昨年五年生の時には、いよいよ東京訪問の機会に恵まれ、事前に電話でやり取りしながら、東京ステイを満喫し、大きなバッグに沢山のお土産をかかえ、大曲駅で出迎えたことも記憶に新しいです。

四十四回目となる今年の交流事業は、新型コロナウィルスの影響により相互の交流事業は中止となりましたが、お互いが刺激し合える交流として、子供にとってかけがえない経験と感じております。

これまでこの交流を支えてくださった両校の歴代PTAの方々、校長先生をはじめ教職員の方々の熱意と努力にあらためて敬意を表し、

この良き伝統を受け継ぎ、五十周年に向けて相互交流事業が再開されることを心から祈念しております。



## 広げよう 交流の輪

校長 高橋 正規

私は、これまで三回の交流を経験してきました。回を重ねることに御田交流のよさや楽しさが強く感じられるようになり、今年の交流も楽しみにしていたところですが、相互訪問ができず残念に感じています。

御田交流は、迎えることも訪問することも、得ることが大きい事業です。御田小の皆さんに千畑のよさを感じていただくために、私達は地域や活動について思いを巡らします。それは、千畑、美郷、秋田を改めて見直す

機会となり、そのことに大きな意義があると感じています。

また、御田小学校の子供たちや保護者の皆さんと出会うことは、人と人とのつながりやかわりについて考える機会となります。多様なものの見方や考え方にふれることができ、自分自身の幅を豊かに広げてくれます。

このように、御田交流は、他地域の方とのふれあいを通して、自らと地域を見つめ、地域への思いをさらに深くすることができるとさらに深く機会なのです。今回の交流だよりは、活動について思いを伝える機会となりました。ここから、活動の輪をさらに大きく広げていきたいものだと思います。



# 御田交流はすばらしい!!

## 絆が受け継がれますように

夫が三十年以上も前に参加し、今でも心に残っていることを知り、ぜひ子供たちにも経験して欲しいと参加したのが始まりでした。受け入れた子供たちは三日間、我が家の子供です。家族です。だからこそ帰ってしまいう日には、家族が離れ離れになるように辛いのです。そして、この交流を通して何かを学んで成長して欲しいと東京で送り出した親と同じ気持ちで見送るのです。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいますが、大家族として過ごした夏の三日間は忘れられない思い出であり、お金では買えない大切な我が家の宝物です。今思い返すと、児童、家族、教職員、地域の役員、行政の協力のおかげでの交流ができていたのだと改めて感謝の気持ちでいっぱいです。また、長く続いた御田交流の歩みの中に自分たちも参加できたことに感謝したいと思います。様々な形の絆を生み、人々の心を繋ぎ続け、そして心に残り続ける御田交流が、この先もずっと受け継がれて欲しいと願っています。



## 来年に持ち越し

世の中は「コロナ禍」であって、いろいろな行事、イベントが中止となっています。今年で四十四回目、いわゆる交流事業が始まるから四十四年目と歴史ある「東京御田交流」、事業も例外ではなく、訪問、受入れ兩事業とも、当然ながら中止となり、静かな夏となりました。

例年二例を紹介いたします。

### （受入れ）

初日、対面式終了後、各家庭で楽しい夜を過ごす。二日目、午前中は、せせらぎ公園で、魚のつかみ取り。

午後から、各家庭で楽しく過ごす。

最終日、朝、学校に集合し、ザリガニ釣りに行き、校庭で、野菜パーティーを楽しむ。午後からお別れ会を開催。

### （東京訪問）

初日、対面式終了後、各家庭で楽しい夜を過ごす。二日目、訪問児童は、各家庭で東京を満喫する。引率団は、御田交流部OBの案内で東京各所を満喫する。最終日、朝、学校に集合し、御田小学校校庭で、水遊び。終了後、交流部特製のカレーライスを昼食としてご馳走になる。

いつもの年なら、この様な日程です。来年度はどうなるのか想像が付きませんが、コロナが収束し、交流事業が無事に行われることを願います。



## 御田交流の感想

「なかなか行けない所に行ける」「知らない友達と仲良くできるかな。」という先立つ気持ち。しかし、いざ交流が始まると子供たちは笑顔で自分のことをアピールし、「〇〇して遊ぼうよ」と自分たちの世界に入る。お互いの生活環境は違うが、子供心には何も違いはない。花火やパーベキュー、環境に関係なく打ち解けて仲良くなり、ついつい子供たちが夜更かしをしてしまおう。

次の日には完全に子供たちの世界になっている。少しばかり自分の主張が強く出る場面も見えてくるが、それがまたいい。美郷町でしかできない虫取りや自然の遊び。三日間という時間はあっという間で、最終日には「もう

う終わりなの？」という感情がにじみ出てきている。御田交流を体験してみて何より感じたのは、子供たちの無邪気な反応と、その一瞬の交流での成長だと思う。楽しく成長している姿を間近で感じられる交流。この伝統ある御田交流を続けていただき、子供たちの成長を感じていただけたらと思ふ。

## 御田交流の繋がり

夏が来た。野菜も育つ。御田交流の季節である。我が家では、長女が二年生の時から毎年受入れをさせていたが、また、六年生の時は御田小へ訪問させて受入れた。

受け入れ時には、特段変わったことは行っていない。家の畑で野菜の収穫を一緒に行った時、玄関先でのパーベキューや花火を楽しんだりした。それは御田の子供たちには好評のようで、野菜をもっと満面の笑みで写真に写る姿、花火を待ってはしゃぐ姿、とても微笑ましい様子ばかりで、とても楽しい場になっていた。家の前の田んぼにいるカエルは格好の遊び相手になっていた。

各家庭の催し物だけでなく、全体での山女魚つかみやザリガニ釣り、野菜パーティー

など、こでしか楽しめない  
催しものも十分あり、充実  
したものとなっていた。

二泊三日という短い時間で  
はあるが、御田小児童から  
「また来るね」という言葉や、  
次の年に「〇〇ちゃんの家  
泊まりたいです」という言葉  
を貰うと、「ああ、やっつて良か  
た」という幸福感でいっぱい  
になる。

今年も我が家に手紙が届  
いた。以前受け入れさせて  
もらった児童から来た。今  
年は新型コロナウイルスの影響で実施  
することが出来なかったが、  
楽しかった思い出とそれぞれ  
の絆は確かにそこに感じられ  
た。

ただのホームステイではな  
く、児童の交流や見聞を広  
げることによる成長を感じ  
られることができた。御田  
交流に関わることができて本  
当に良かったと思う。



昨年度参加した子供たちから  
思い出がいっぱい

また行きたい!!

### また行きたい御田交流

五年

わたしの家では、去年御  
田交流の受入を初めてやり  
ました。最初は最初はちよう  
しいけれど、最後は、とても  
いい思い出になりました。た  
とえば、魚を素手で取ったり  
、おにぎりもみんなで食べたり  
しました。

今年、コロナウイルスのせい  
でできないのは残念ですが、  
「去年、御田交流をしてみ  
てよかったな」と思いました。  
来年、交流ができるようだつ  
たら美郷町の名物をみんな  
で食べたり、みんなで田沢湖  
に行ったりしたいなと思いま  
す。「また楽しみたいな」と  
思いました。



思い出たくさん御田交流

五年

去年は、私の家に受け  
入れて来た女子と三日間過  
ごして楽しかったです。  
まん画美術館に行つたら  
ワークショップをやっていま  
した。記念に、自分でかいた  
絵の入ったストラップを作り  
ました。時々見て、楽しか  
つたことを思い出しています。  
来年は6年生で、交流に  
参加できる最後のチャンスで  
す。ぜひ参加したいです。



### また東京交流に行きたい

五年

昨年は、とまらせていただ  
きありがと〜ございました。  
今年はずいぶんコロナウイル  
スのせいで行けなくなりましたが、  
コロナウイルスが落ち  
てきたらまた東京に行き  
たいです。スカイツリーに  
はつて東京のきれいなけしき  
をみたいです。  
また御田小学校の人と乗  
り遊びたいです。

### いっぱいの思い出

五年

昨年は秋田に来てくださ  
りありがとうございました。  
今年はずいぶんコロナウイル  
スの影響で、来年コロナ  
ウイルスが落ちた後に行  
きたいです。それまで、みな  
さん元気であらうように。  
また、パーベキューとかし  
ようね。それが、どこかに  
出かけようね。



忘れられない思い出

六年

私の家では、一丁五年生の  
時に、御田小の子を受け入  
れましたが、どれも楽しか  
つたし、お別れのときは悲し  
かったです。

今年はずいぶんコロナウイル  
スの影響で、来年は友  
達と東京に行つて、御田の友  
達と会つてみたいですが、こ  
の交流がずっと続いてほしい  
です。



### 続け！御田交流

六年

今年はずいぶんコロナウイル  
スの影響で、来年は友  
達と東京に行つて、御田の友  
達と会つてみたいですが、こ  
の交流がずっと続いてほしい  
です。

## また行きたかった

六年

去年、初めて御田小に行き、学校で水遊びをしたりカレーを食べたりして、とても思い出になりました。また、受け入れ先のおうちでも、キッズシアターに行ったり、ロールアイスを食べたり、とても楽しかったです。

今年も行けなかったけど、弟がいるので、ぜひ、受け入れをして、もっと仲良くなりたいです。



## 御田交流のみんなとの思い出

六年

私は、御田交流でいろいろな人たちと遊んで、とてもおもしろかったです。

今年は無いは悲しいですが、またいっかい会えたいと思います。また行けたら、友達をつくりたいです。

## 御田小学校のみなさんへ



ぼくは、四年生の時から御田交流に参加しています。四年生、五年生のときの御田交流では、秋田県ではできないことや、東京ではできないことなど、貴重な経験をすることができました。今年も、コロナウィルスで、御田交流が中止になって、とても残念だけど、これからも、思い出に残る御田交流が続いてほしいです。

## 続いてほしい

六年

去年、東京訪問に参加しました。受け入れ先の人と最初は上手に話すことができなかったけど、遊んでいくうちにだんだん話せるようになったのでよかったです。学校では水遊びをしてとても思い出に残ったので、今年も行きたくいです。この交流をこれからもずっと続けていってほしいです。

## 楽しい御田交流

六年

ぼくが初めて御田交流に参加したのは、四年生のときです。そのときは受け入れ先だけで、訪問は考えられませんでした。でも、五年生になんで訪問してみると、ホームステイ先の人もやさしいし、行きたい場所にも連れて行ってくださって、とても楽しかったです。

今年も行けないけれど、今度、機会があったら、ちょっと戦いたいと思います。



## いつかまた

六年

私は、御田交流に参加してよかったです。なぜなら友達と二人もできたからです。最初はきんちゃんとしてあまり話せなかったけど、だんだん話しやすくなりました。今年は、おはがきを送ったりして、友達と話しています。いつかまた東京に行つて友達と会える日が来たらいいなと思います。

## 思い出いっぱい御田交流

六年

私が一番思い出に残っているのは、みんなでスイカ割りをしたことです。きれいには割れなかったけど、友達と食べるスイカは特別でした。今年もコロナで顔を見たり、直接あつたりできないけど、またいつか、どこかで会えたらとってもうれしいです。



# 今年度の交流部より

## 交流の絆 つないでいきたい!!

### 御田交流だより

部長

(六年)

息子が千畑小に入学するとき、四年生になったら絶対に御田交流に参加させたい！自分も役員として参加したい！と思い、四年生の時から携わらせていただいています。なぜこのように思ったかというところ、私自身が二十数年前、千畑小の児童だった時に参加して貴重な体験をすることができ、その体験を息子にもさせたいし、今度は親という立場で参加してみたいと思ったからです。

念願が叶って、実際に親役員として参加してみても感じたことは、四十二回と御田交流が続いてきたのは、多くの方々の熱い想いと、多力によつて受け継がれてきたというところでして、受け入れに際しては子供たちが安全に楽しく過ごせるように、校長先生を始め先生方、PTA会長さんや交流部長さんを主として、細かいことまで打ち合わせが重ねられていました。

また、私は昨年の東京訪問に引率をさせていただき、御田小の役員の方々、先生方、月の岬に会の皆様とふ

れあい、感謝という言葉では言い表すことができない気持ちをもったこと、四十三回目の交流も必ず参加したい、次の世代に繋げていきたいと思つたことを覚えています。

今年四十三回目となるはずであった交流は東京オリンピックと重なり、どのような形であつても子供たちには一生の宝物となる体験になるだろうなど、心を躍らせながら考えて迎えた今年度でしたが、新型コロナウィルスの影響で行うことができませんでした。とても残念ですが、来年以降もこの交流を繋いでいきたいという私たち役員の熱い想いのもと、この年度の交流部だよりを発行することになりました。

今年初めて参加したいと思つていたお子さんもいたかもしれません。実際には行が、この交流部だよりを通して御田交流を知つてもらい、次回の参加のきっかけとなり、この交流が子供たちの子供、更に孫の世代にまで繋がる交流であつて欲しいと思います。

今年念願叶いませんでしたが、来年以降、機会があるなら、御田交流!!ぜひ携わつてみてください!!普段では味わえない経験ができます!!(子供はもちろん親も!)そして、この伝統を次世代へ...と願っています。

### 御田交流の継承

(二年)

御田交流に関わらせていただいたたくさんの子供たちの笑顔を見ることができました。東京と秋田の子供たちが「泊三日」という限られた日数で体験したこと、感じたことが思い出として心に残り、大人になつた時に思い返して継承されていくことを願います。またお手伝いできればと考えております。

### 「ご縁」に感謝

(二年)

「このコロナの機会に、交流をやめたいのではないかと、そんな意見も出ているようです。交流に参加したことがない方は、特にそう思うことでしょうか。書いている私も、交流に参加したことはありません。

しかし、なぜ、先生も生徒も毎回変わる中、ここまで交流が続いたのだろうか」と、私なりに考えてみました。御田から美郷に来る子供たちが体験することは、私が初めて海外に行ったときのような経験に近いのかなと思われました。

海外での初任事は、すべてが新鮮で、手探り、悩みそと五感をフル回転させながら生きたことを思い出します。



新しい発見ばかりで、大きな刺激を受けました。

それと同様に「都会とは違う森や川のおい」「素足で水に入り、イワナを捕らえ、焼いて食べる」「秋田弁という未知の言語を聞く」「秋田の知らない食べ物を味わう」「ビルがない空で星を見る」など、御田の子供たちが美郷で得た「脳みそだけでなく五感を使った経験」は、うまく言葉にはできないものの、「また行きたい」「継続したい」、親にとっては「子供に来年も行かせたい」「子供に来年も行かせたい」という思いを生み、それが何十年も続くことに繋がったのではないかと思います。

今後の開催の有無は、残念ですが世の中の流れに左右されると思います。いずれの選択をしても、私はここまで何十年と繋がってきたことに感謝したいと思います。



## 御田交流

(二年)

今年度の御田小学校との交流は、新型コロナウィルス感染症により中止となりました。

上の娘が四年生の時に初めて御田交流会に参加し、去年受け入れられました。「来年も参加したい」と年越しで楽しみにしていた交流会だったのに残念で仕方ありません。娘にあっては「生のお出にきたはずです。コロナが終息し、いつものように交流会ができることを願っております。」

## 御田千畑の絆

### 途切れずに

(四年)

令和二年「コロナ」の影響により、交流会自体中止になってしまいました。息子は四年生になり、御田小の受け入れ、そして訪問により都会の子との触れ合いや、大都会の空気や雰囲気を経験させてやりました。次回(来年?)に期待を込めます。

高、今年の千畑は、明けない梅雨(ラベンダー全滅)、盆過ぎでの高温、雨が降れば、集中豪雨と、変な気候

## 交流で得られること

(四年)

今回二回目の交流部員となり、我が家は、役員受け入れ、訪問、全て参加させていただけました。

受け入れは、元々予定ではありませんでした。なかなか決まらず、これも何かの縁だと思っ引き受けました。最初は子供たちも緊張して話しかけられずいましたが、打ち解けてからはとても盛り上がり、見ていて楽しかったの思い出です。雨で最初予定していたところには行けませんでした。東京に帰ってから「とても楽しかった。ありがとうございました」とお礼の電話をいただいたときは、嬉しんだけ受け入れをしてよかったと思います。

東京訪問もシニアバンド部の演奏会と重なって行けなかつた年もありましたが、上の息子は二回訪問しました。秋田ではなかなかできないこと、見られないものなど様々な経験して帰ってきました。

今年はその娘が訪問したかったようでしたが、新型コロナの影響で交流が中止になりました。とても残念ですが、私自身、役員受け入れをして、普段できないことを経験させていただけました。親子二代で参加している人もい

るといことだったので、これからも交流が続くことを期待しています。

## これからも続く絆

(五年)

今年度は交流部の活動がなくなりとても残念に思っています。何年か交流部の活動を通して、子供たちの受け入れの際、絆を聞くこと「あつ今年も交流するんだ」と私が心ワクワクするんです。受け入れた子供たちともハガキの交流をしている兄たち。これからも千畑小と御田小の交流が長く続きますように願っています。



## 繋げた絆

(五年)

私は千畑南小の卒業生です。で、中学になって千屋小卒の同級生から当時の話を聞いたことがあり、本校に娘が入学することになった時はこの体験をさせたい、自分も関わってみたいと思います。

行動範囲の狭い子供たちにとって他校のお友達との交流は特別で、ちよとドキドキするもの。はじめは何て声を掛けよう?普段はどんな遊びをしているの?何が流行っているの?仲良くなりたくて、自分にも興味を惹かして色々と趣向を凝らします。様々な活動を通じて相手の表情や仕草、声のトーン等から気持ちを読み取り、コミュニケーションを図る上で、この交流はとても貴重な体験のひとつだと思っています。子供の成長に伴い人との関わりが増え、この経験がどんな活かされいくことに期待しています。

今年度はこれまで例の無い年となり、子供たちも多くこのことを制限され我慢の年となりそうです。今後の状況が良くなり、来年度はみんながまた元気に会えるように、このお便りで繋がっていることを願っています。

毎年、千畑小PTA・OBで構成する「松並名(八名)の会(聯合)隆会(長他二十八名)の方々、そして地域の方々がこの交流を支えてくださっています。わたしたち千畑小PTAもみんなの力を合わせ、この交流をのびたいと思いませんか? 次回の交流は、今まで以上にたくさんの子供たちが安心して保護者のみなさまが参加してくださることを願っています。